

宇宙飛行士トレーシー・ダイソン博士講演会

羽ばたけ、宇宙へ

# 女性宇宙飛行士が語る 無限大の可能性



現代社会において、女性はさまざまな分野に  
羽ばたいてきました。輝かしいその功績の  
一つが、宇宙への飛翔です  
物理化学博士であり、NASAの宇宙飛行士である  
トレーシー・ダイソン博士に、  
宇宙飛行士として、化学者としての  
ライフストーリーをお話しいたします

2014年3月26日(水)  
14:00-16:00

奈良女子大学記念館

司会：松岡 由貴 (奈良女子大学)

● 逐次通訳つき

入場無料  
申込不要

お問い合わせ

中川 千帆 cnakagawa@cc.nara-wu.ac.jp

主催：駐大阪・神戸アメリカ総領事館

共催：奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター

アメリカ航空宇宙局 (NASA) 宇宙飛行士、化学者

トレーシー・ダイソン博士

略歴

計188日の宇宙滞在、計22  
時間の宇宙遊泳を経験して  
いる。カリフォルニア大学デー  
ビス校大学院にて痕跡物質  
の化学イオンのスペクトル  
解釈法を開発し、物理化学  
博士号を取得





# 女性宇宙飛行士が語る 無限大の可能性

アメリカでは、3月は女性の歴史月間となっています。そこでこのたび、3度の宇宙遊泳を行ったトレーシー・ダイソン博士がアメリカ大使館の招聘で来日され、奈良女子大学で講演していただくことになりました。

最近、日本でも理系の女性たちが注目と期待を集めていますが、宇宙飛行士のダイソン博士の物語は理系専門分野を目指す女性たちによいインスピレーションとなるでしょう。

化学者でもあるダイソン博士が、どのような経緯で宇宙飛行士になったのか。国際宇宙ステーションでは、どのような宇宙体験をしたのか。彼女のライフストーリーを中心に、働く女性のあり方、科学技術の習得がもたらす可能性などをお話しいたします。

アメリカ航空宇宙局(NASA)宇宙飛行士、化学者

## トレーシー・ダイソン博士

アメリカ航空宇宙局(NASA)の宇宙飛行士、化学者。1998年NASAの宇宙飛行士の候補に選ばれ、2007年に最初の宇宙飛行を経験。エンデバーのミッションスペシャリストを務めた。2010年4月4日から2010年9月25日までは、第24次長期滞在の一員として国際宇宙ステーションに176日間滞在。これまでの宇宙滞在は合計188日に及び、その間3度、計22時間の宇宙遊泳を体験している。

カリフォルニア大学フラトン校の学生時代は、大気中の気相化学を研究、有害化学物質や放射性物質を用いた研究室の環境モニタリングや機器の校正、化学物質や放射性廃棄物の処理に携わり、化学学士号を取得。カリフォルニア大学デービス校大学院にて痕跡物質の化学イオンのスペクトル解釈法を開発し、物理化学博士号を取得している。